

1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。  
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

( ) 月 日 曜日

いつもとちがう風景  
 永田小学校 六年 佐藤 花風  
 私は、山小学校ですごく遠く、ありに白谷雲  
 水きょうへのぼった。季節は冬、最初の方は  
 まだ寒くない。少しぐらりの雪なら素手でさ  
 おって雪だるまを作ったりも出来た。しかし  
 それをくり返していくうちに手はかじかんで  
 くるし寒くはなるしくつはがきヨグキヨ、私  
 はたどりつく前にうかえられたおれこみそうだ  
 った。そんな状況で、うざーと山に登って  
 いく。少しひらけた所にくるとあと少し、と  
 思えば、いり先生に聞けばほど遠い。そんな  
 事をくり返して登って、いく。や、とついた時  
 には、持ったニットのきぶくろはニットと  
 おびしきびしきだった。登り終わったらもこ  
 お昼。おなかはグログロ。お昼ごはんを食べ  
 終えた。次は待ちに待った雪合戦だ。入口か  
 ら五分ほど歩くと岩が広がって、いる所に着く  
 のでそこで雪合戦をする。私は階段を登って  
 いる時にまわりを見てみた。さ、きまではよ

(不許複製)

3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。  
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。



1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましよう。  
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましよう。

( ) 月 日 曜日

ゆうがなくて周りをあまり見ていなかつたが  
一面が雪。いつもの白谷雲水も、うには見え  
ない。雪の中にもれでいる白谷雲水も、う  
を歩いているとまるでおとぎ話の中に入つた  
ふらだつた。見る所一面真っ白なのだ。こん  
な景色を見たのは生まれて初めてだ。た。雪  
を見るのも久しぶりだ。もう場所に  
着けばみんなは雪合戦の夢中。私も今はかじ  
かんたいたりどころこまの雪を前にして遊ば  
ない事は出来ない。作る。投げる。遊んでし  
まえばもう寒くはなかつた。たまにすべつて  
こける。雪が積もつているから、全くたく  
ない。すべてが新鮮だ。た。雪合戦も雪に  
うもたれるのも、けだ雪合戦が終つて帰り  
道。帰りはずと、道路を下つて宮のうらま  
で歩く。つまさきもがじがんできた。急に寒  
くなつてしまつた。と中に水があつてい  
たから、丸もくんだりもした。手に冷たい水  
がかかつた。友達に借りた手ぶくもぬえた。  
本当に素手だ。もうかんかくはないのに寒い。

(不許複製)

3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましよう。  
4 書き終つたら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましよう。



